

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法評価学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時間	通年	教室名	機能訓練室
担 当 教 員	森下 昇	実務経験と その関連資格	理学療法士(2007年)、心臓リハビリテーション指導士、呼吸療法認定士 鳥取県理学療法士会理事 急性期～在宅までセラピストの運営管理・実務を経験			
《授業科目における学習内容》						
理学療法評価の基礎として、目的・意義や過程・流れや対象等を学んでもらいます。また実際として、進め方・情報収集について理解し、形態測定や関節可動域検査、筋力検査を行います。						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験(100%) 定期試験(100%)から総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
理学療法評価法 第3版(九州神陵文庫) MMT 適切な検査肢位の設定と代償運動の制御(メジカルビュー)						
《授業外における学習方法》						
より理解を深めるための事前学習を行い、また演習後は学生同士で検査備品を実際に用いて復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
「評価に始まり評価に終わる」と言われるくらいこの評価学は重要です。一つ一つの検査をイメージし学生同士で体得していきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	① 正確な評価方法に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(20分) シラバスを読む 事後学習(40分) 講義の振り返り	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、評価の基礎を知る			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	① 正確な評価方法に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :評価の基礎 事後学習(30分) 講義の振り返り	
		各コマにおける授業予定	評価の基礎 評価の進め方を知る			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	① 正確な評価方法に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :評価の進め方 事後学習(30分) 講義の振り返り	
		各コマにおける授業予定	評価の進め方を知る			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	① 正確な評価方法に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :医療面接・情報収集 事後学習(30分) 講義の振り返り	
		各コマにおける授業予定	医療面接と情報収集を知る			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	① 正確な評価方法に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :周計 事後学習(30分) 講義の振り返り	
		各コマにおける授業予定	形態計測(周径の測定)ができる			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	①および②形態測定について知る	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :四肢長 事後学習(30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	形態計測(四肢長の測定)ができる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	①および②関節可動域について知る	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :関節可動域 事後学習(30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	関節可動域について知る		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	①および③四肢体幹の関節可動域検査を習得・理解する	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	関節可動域検査の実際(肩甲帯)ができる		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	①および③四肢体幹の関節可動域検査を習得・理解する	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :肩関節 事後学習(30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	関節可動域検査の実際(肩)ができる		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	①および③四肢体幹の関節可動域検査を習得・理解する	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :肘・前腕・手関節 事後学習(30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	関節可動域検査の実際(肘・前腕・手)ができる		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	①および③四肢体幹の関節可動域検査を習得・理解する	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :股関節 事後学習(30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	関節可動域検査の実際(股)ができる		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	①および③四肢体幹の関節可動域検査を習得・理解する	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :膝・足関節・足部 事後学習(30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	関節可動域検査の実際(膝・足・足部)ができる		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	①および③四肢体幹の関節可動域検査を習得・理解する	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :頸部 事後学習(30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	関節可動域検査の実際(頸部)ができる		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	①および③四肢体幹の関節可動域検査を習得・理解する	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む :体幹 事後学習(30分) 講義の振り返り
		各コマにおける授業予定	関節可動域検査の実際(体幹)ができる		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	①および③四肢体幹の関節可動域検査を習得・理解する	指定テキスト	事前学習(30分) 1回-14回まで振り返り 事後学習(30分) まとめ
		各コマにおける授業予定	まとめ 振り返り		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法評価学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年	教室名	機能訓練室
担 当 教 員	田中 利昭	実務経験と その関連資格	理学療法士として、医療機関・福祉機関・教育機関で従事していた			
《授業科目における学習内容》						
理学療法評価の基礎として、目的・意義や過程・流れや対象等を学んでもらいます。また実際として、進め方・情報収集について理解し、形態測定や関節可動域検査、筋力検査を行います。						
《成績評価の方法と基準》						
実技試験(100%) 定期試験(100%)から総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
理学療法評価法 第3版(九州神陵文庫) MMT 適切な検査肢位の設定と代償運動の制御(メジカルビュー)						
《授業外における学習方法》						
より理解を深めるための事前学習を行い、また演習後は学生同士で検査備品を実際に用いて復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
「評価に始まり評価に終わる」と言われるくらいこの評価学は重要です。一つ一つの検査をイメージし学生同士で体得していきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	徒手筋力検査の意義・目的・基礎知識を理解・習得する	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 講義の振り返り	
		各コマにおける授業予定	徒手筋力検査の総論			
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 講義の振り返り	
		各コマにおける授業予定	徒手筋力検査の実際(上肢)①			
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う	
		各コマにおける授業予定	徒手筋力検査の実際(上肢)②			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う	
		各コマにおける授業予定	徒手筋力検査の実際(上肢)③			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う	
		各コマにおける授業予定	徒手筋力検査の実際(上肢)④			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う
		各コマに おける 授業予定	徒手筋力検査の実際(肩甲骨)①		
第22回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う
		各コマに おける 授業予定	徒手筋力検査の実際(肩甲骨)②		
第23回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う
		各コマに おける 授業予定	徒手筋力検査の実際(肩甲骨)③		
第24回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う
		各コマに おける 授業予定	徒手筋力検査の実際(下肢)①		
第25回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う
		各コマに おける 授業予定	徒手筋力検査の実際(下肢)②		
第26回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う
		各コマに おける 授業予定	徒手筋力検査の実際(下肢)③		
第27回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う
		各コマに おける 授業予定	徒手筋力検査の実際(下肢)④		
第28回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う
		各コマに おける 授業予定	徒手筋力検査の実際(頭頸部・体幹)①		
第29回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う
		各コマに おける 授業予定	徒手筋力検査の実際(頭頸部・体幹)②		
第30回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	正確な徒手筋力検査に関する知識と技術を身に付ける。	指定テキスト	事前学習(30分) 指定テキストを読む 事後学習(30分) 実技の復習を行う
		各コマに おける 授業予定	徒手筋力検査の実際(頭頸部・体幹)③		